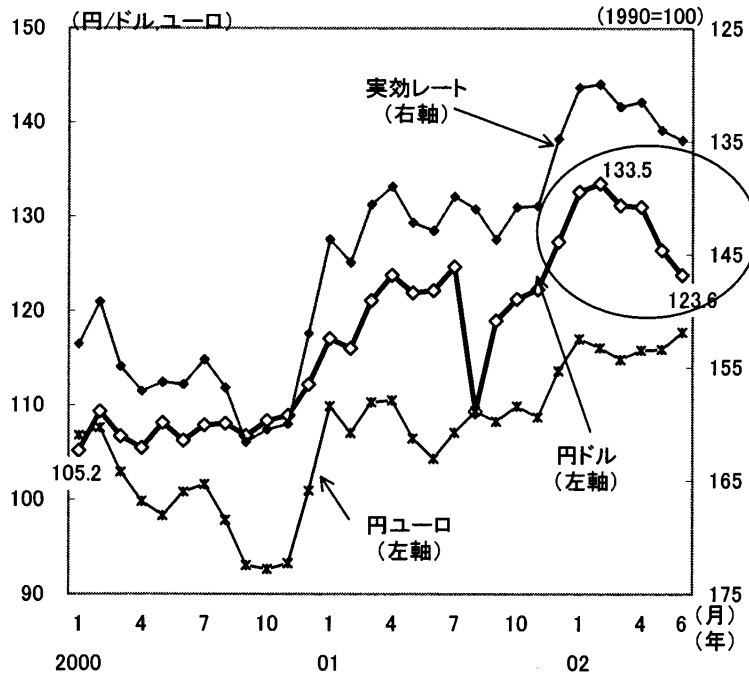
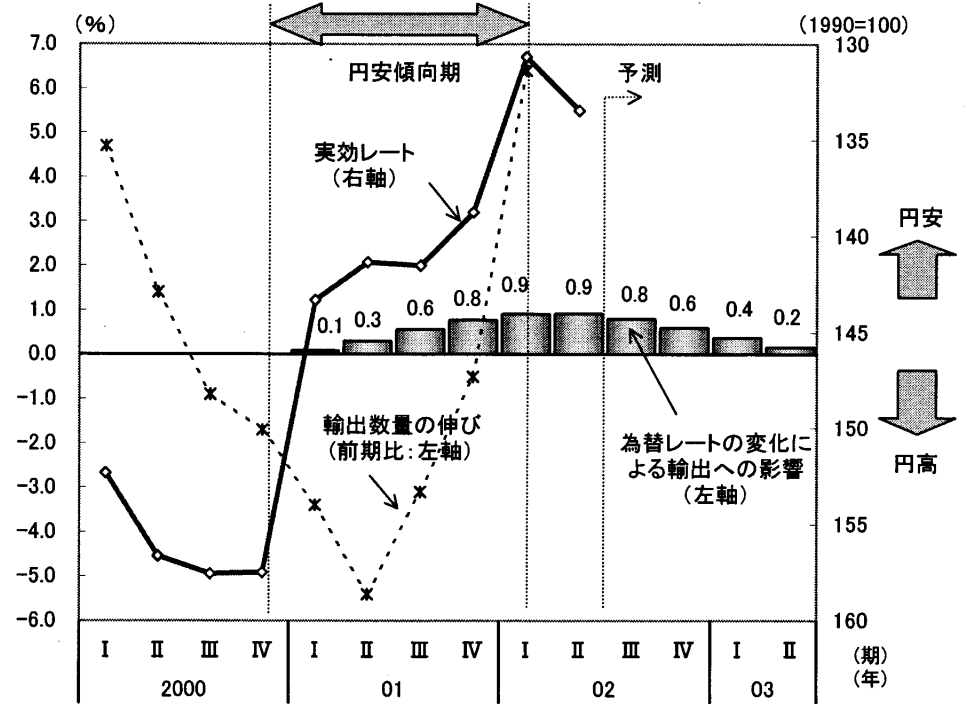


2000年末からの円安傾向のプラス効果がラグを伴った形で顕在化することから、足元での円高傾向が輸出全体に与える影響は、当面は限定的

為替レートの推移



為替レートの変化が輸出に与える影響



- (備考)
1. 財務省「貿易統計」「貿易取引通貨別比率」、JP-Morgan「Currency Indices」により作成。
 2. 図3は、2000年第IV期以降の為替(名目実効レート)の変化が輸出数量に与える影響を試算したもの。為替変動要因については、経済企画庁「日本経済の現況H12年版」における輸出価格・数量関数の推計をもとに、名目実効レートが2000年IV期の水準で2001以降推移したと仮定、現実のレートとの差をもとに試算した。
 3. 2002年Ⅲ期以降の為替変動要因については、同年6月の名目実効レート(134.9)の水準が続くと的前提による。
 4. 対米円ドルレートは2000年IV期が109.8円/ドル、2002年Ⅰ期が132.4円/ドル(ともに期間単純平均)。2002年Ⅱ期は127.1円(6月での月中平均では123.6円)。